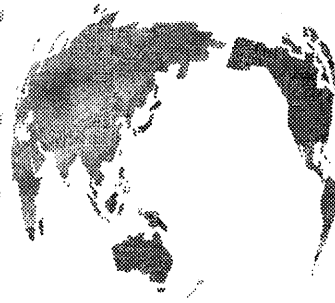




平成13年3月6日 発行



北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第49号



会長 高橋 承造



事務局長 真木 孝輝



内なる国際化

北海道国際理解教育研究協議会

事務局長 真木 孝輝

国際理解教育も、年月を重ねた研究の結果、さまざまな取り組みがなされた。その結果単に外国を教材にするからとか、外国の方が授業に入ってくるから国際理解教育だという初期の形式的なとらえから、もっと幅広く考え、その児童個人の内面の心の陶冶をねらった授業の試みが随所に見られるようになったと感じている。

国際理解教育は、日本のみ存在する特異なものとよく聞く。確かに外国に行くと、陸続きであり、線一つ越えれば、いえ、隣人はもう違う国の人だという例を多く見てきた。従って、長い歴史の中で平和に暮らしていくためには、隣人を理解し、相互に助け合っていくことが多くの国では、必須の条件となったのであろう。

ひるがえって日本を見るに、当然のことながら、島国であり、長い間の鎖国政策とも相まって、当然のように、単一の価値観、文化風習が育ち、「違うこと」が嫌われる風土が醸成されたと思う。しかしそれがゆえに、現在の国際化時代の流れにはそぐわづらく、あえて「国際理解教育」と銘打って教育を行わなくてはいけなくなったのだろう。

しかし、「国際理解教育とは何か」の本会の先進的な研究の積み重ねのおかげで、現在では、ようやく「国際理解教育とは、心の内なる排他的意識を廃止し、相手の立場や背景、文化を共感的に理解し、相互に尊敬し合って生活していける人間を育てる試み」と解釈するようになったと私は思っている。だからこそ、「あれは国語の授業とどう違うのだ！」という声が聞こえる授業が実践され、論議の的となっているのだろう。これは国際理解教育の質的な成長を示すすばらしいことだと私は感じている。

平成12年度

「派遣教員及び帰国教員研修会」開催される

北海道国際理解教育研究協議会事務局

平成13年1月9日(火)に北海道教育委員会から後援をいただき、平成12年度の「派遣教員及び帰国教員研修会」が札幌市立苗穂小学校を会場に開催されました。

今年度も全道各地から多くの方々の参加を得て行われました。開会式のあと、平成12年3月に海外の日本人学校並びに補習授業校から帰国された先生方の実践発表が5つの分科会に別れて行われました。各先生方からは、一人30分程の短い時間ではありましたが、在外教育施設での3年間の教育実践や現地の教育事情等についての内容の濃い発表がありました。実践発表の分科会には、国際理解教育に関心を持って研究を推進されている先生方もたくさん参加されて、熱心な研究討議が行われていました。

また、実践発表後に行われました派遣地域別研修会では、平成13年4月に海外の日本人学校に派遣される先生方に、12年3月に帰国された先生方をはじめ多くの先輩派遣教師から在外教育施設における教育事情や現地の生活面に関わること、そして派遣までの諸準備から派遣教員としての心構えに至るまで細かなところまで研修が行われました。派遣を前にしての希望と不安を抱いて参加された派遣教員の方々は、研修を通して派遣教員としての自覚を深めたようでした。また、昨年に引き続いて今年度も派遣教員の奥様の参加もあり、特に現地の医療面や食生活などについて熱心に質問されたりしていました。

半日という日程の中での研修会でしたが、在外教育施設における国際理解教育の現状にふれながら、国際社会に生きる子供たちに今まで以上に生きる力を付けなければならないことの大切さと、今後とも全道において国際理解教育の充実のために力を注がなければならないことを改めて確認した時間でした。

ホームページ開設に向け準備を進めています

北海道国際理科教育研究協議会事務局では、現在、組織部を中心にして本会のホームページ開設に向けて準備を進めています。

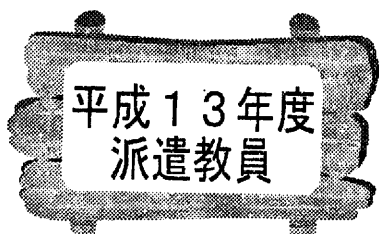
本会の活動や研究内容を広く公開するとともに、全道各地との活動の交流や情報交換及び情報の蓄積を主な目的に考えています。現在の海外に向けての広報誌発送にあたっては、ファイルとして添付しているため、ウイルスの問題が心配されます。しかし、メールでの案内を受けてホームページを閲覧する形にすることで、それらの問題も解決されます。

開設時期はまだ未定ですが、平成13年度具体的な作業等の準備を進めていく予定でいます。

北海道国際理解教育研究協議会サーバーアドレス

kokusai-spk@col.hi-ho.ne.jp

◇上記のアドレスに会員のみなさんのご意見をお寄せください。



平成13年度 在外教育施設派遣教員

管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先
胆振	伊達市立有珠小学校	教頭	道源 義博	モスクワ日本人学校
渡島	森町立尾白内小学校	教諭	池田 克己	ベルリン日本人国際学校
渡島	七飯町立七重小学校	教諭	五十嵐義幸	アブダビ日本人学校
渡島	函館市立大川中学校	教諭	吉田 敬三	ブラッセル日本人学校
上川	美深町立仁宇布中学校	教諭	中間 靖之	フランクフルト日本人国際学校
上川	旭川市立聖和小学校	教諭	武山 昌裕	ハノイ日本人学校
上川	旭川市立明星中学校	教諭	辻並 浩樹	ミラノ日本人学校
宗谷	利尻富士町立鴛泊小学校	教諭	大垣 英司	香港日本人学校香港校
網走	興部町立沙留中学校	教諭	小野寺哲浩	香港日本人学校香港校
胆振	壮瞥町立壮瞥小学校	教諭	柴田 政人	ロンドン日本人学校
胆振	室蘭市立御前水中学校	教諭	猪股 俊哉	ドバイ日本人学校
十勝	鹿追町立鹿追小学校	教諭	山川 修	クアラルンプール日本人学校
札幌市	札幌市立真駒内曙中学校	教諭	井上 晃男	台中日本人学校
札幌市	札幌市立幌西小学校	教諭	箭内 浩之	モスクワ日本人学校
札幌市	札幌市立発寒中学校	教諭	吉田 英明	サンパウロ日本人学校
札幌市	札幌市立西小学校	教諭	石原 和人	コロンボ日本人学校

3年間の活躍をご期待申し上げます

第21回全道大会を終えて

北海道国際理解教育研究協議会
事務局 研究部部長
札幌市立月寒小学校 中村 淳

第21回全道大会が無事終了した。第6次研究の2年度目として、充実した全道大会だったと考える。

そこで、本大会の成果と課題についてまとめたいと考える。

広く世界に目を開き、未来を切り開く児童生徒の育成
～ 共生の心を持ち、自ら課題を解決しようとする自己の確立を目指して ～

1. 成果と課題について

① 研究の方向性について

我々が、子供の学びの姿を大切にし、理念ではなく、子供たちの問題解決の姿を問うという研究の姿勢は多くの支持を受けたと考える。授業分科会においても、「地球市民」という目指す子供の姿は理解できる。ではどの子供の活動が「地球市民」としての活動なんだというように子供の解決の姿を問う質問が多かったように思う。各地で実践が進んだ結果、授業の質を益々問われてきていることを表すと考える。

このように、国際理解の理念を啓蒙授業から、「地球市民」としての心を育んだ子供たちの問題解決の姿を授業の中で具体化させなければならないのである。

② これからの研究のキーワードについて

- ・「地球市民」 目指す子供の姿として
- ・共生 共生の心を育てる教育
共生の心を持った子がどんな解決をするのか。
- ・地域 子供の生きる力

③ 「外国語教育」分科会について

当初の予定より数多くの参加者があったことから、北海道における「小学校外国語」教育の関心の高まりを感じる。国際理解教育における外国語教育はさけて通れない課題だと考える。外国語教育を国際理解教育のひとつの手段にするためにも積極的に取り組んでいく必要があると考える。

また、事務局が主体的に分科会を設定すること、事務局の全道に対する問題提起とも言える。また、研究の具体的な共通課題にもなると考える。これからも継続していくことが大切だと考える。

I E フォーラム

先日、H I S（北海道インターナショナルスクール）を訪ねる機会に恵まれた。目的は、今年の全道大会に向けてH I Sの子供たちと日本の中学生とが交流する授業を作っていくための打ち合わせである。

この打ち合わせの中で、I Sの子供たちが日本の中学生に対してどんな印象を持っているのかが話題になった。予想通り、あまりいい印象は持っていないようである。特にいじめについては、恐れを抱いているようである。外国人の子弟や、日本人を親に持つ子供たちがあえてI Sを選ぶのにはこの辺に理由があるのかもしれない。

国際化時代において、日本について興味を持ち、理解しようとする人々を増やしていくことは国策ともいえるほど大事なことである。そのよき理解者となるべき子供たちが、日本の子供たちに悪い印象しか持っていないとするとこれはゆゆしき問題である。

確かに、I Sの子供たちがテレビなどの情報だけで一方的に決めつけている部分もあるだろう。だが、日本の子供たちの本当の良さを理解されず、誤解をうけていることは紛れもない事実である。

幸い、I S側の協力を得て、継続的な交流が可能となりそうである。この交流を通して誤解をとく鍵を見つけていきたいものである。



図 書 紹 介



英語はいらない

鈴木孝夫
(すずき たかお)

1926年生まれ

慶応大学名誉教授

専攻は英語社会学

鈴木孝夫の名前を聞いてすぐに「英語」と浮かぶほど著者は英語に関する著書が多い。近年も「日本人はなぜ英語ができないのか」また「鈴木孝夫著作集」などが発行されている。

著者は「英語公用語論」に代表されるように、外国語とくに英語の習得が声高く叫ばれている現状に、時には国をも破壊する恐ろしい言語の力を紹介し、英米語ではない「あたらしい英語ENGLIC」の使用と日本語の国際普及であると主張する。

著者の主張は確かに刺激的である。国際的に日本人がだめになったのは、英語が使えないためではなく、国家とは何か、守るべき文化とは何かという根本がだめになったからという考えには肯くしかない。

言葉を使うとはどういうことなのか。自分の文化とはどういうことなのか。自分の生き方の根本を問われる著書である。

(北海道国際理解教育研究協議会 研究部長 中村 淳)

第22回北海道国際理解教育研究大会 札幌大会のご案内

大会主題 広く世界に目を開き、未来を切り拓く児童生徒の育成 ～地球市民として生きる力を育てる～

今日、国際化が大きく進展する中で、社会の変化に対応する児童・生徒を育成する教育を求めて教育改革が進行しています。21世紀がスタートし「日本人であると同時に、地球的な視野に立って行動できる人間」すなわち、地球市民として生きる日本人の育成が課題になってきています。その中で、特に学校教育が果たさなければならない責務は極めて大きいものがあります。

このような中で来年度、北海道国際理解教育研究大会を札幌で開催することとなり、今年度の胆振・室蘭大会での成果を受け継ぎ準備を進めているところであります。

札幌では、皆様が来てよかったと感じることのできるような大会にしようと授業研究を進めています。子どもたちの姿で語り合うことのできる大会、参加者参加型の大会にしようと計画しています。全道の皆様方に多数ご参加いただき、自由に、そして活発に意見を交換していただくことを期待しております。

札幌国際理解教育研究会
会長 橋本 フミエ
(札幌市立福移小中学校長)

- ◆ 期 日 平成13年11月 1日(木)・2日(金)
- ◆ 会 場 札幌市立苗穂小学校(メイン会場)
札幌市立美香保中学校
北海道インターナショナルスクール
(幼稚園・高校授業会場)

- ◆ 日 程
- <1日目> 11月 1日(木)
- 13:00 受付
- 13:30~14:10 開会式・全体会
- 14:30~16:30 課題別分科会
- 17:00~19:00 レセプション
- <2日目> 11月 2日(金)
- 8:45 受付
- 9:00~ 9:45 1次公開授業
- 10:00~10:30 開会式・全体会(苗穂小学校研究大会)
- 10:45~11:30 2次公開授業
- 11:30~12:30 昼食
- 12:30~14:00 授業分科会
- 14:15~16:00 ワークショップ
- 16:10~16:20 閉会式

<課題別分科会>

- ・第1分科会 ~国際理解でめざす総合的な学習とは~教室での実践から
- ・第2分科会 ~国際理解でめざす総合的な学習とは~学校としての取組から
- ・第3分科会 ~ニューカマーに関する問題点を探る~
- ・第4分科会 ~小学校における外国語教育の現状と課題~

各分科会での発表を募集しています。今から心がけて実践をまとめていただければと思います。奮ってご応募ください。

<ワークショップ>

参加者の皆様方が実際に体験できるような参加型のワークショップを考えています。その中で、テレビ会議も計画しています。くわしくは、後日お知らせいたします。ご期待ください。